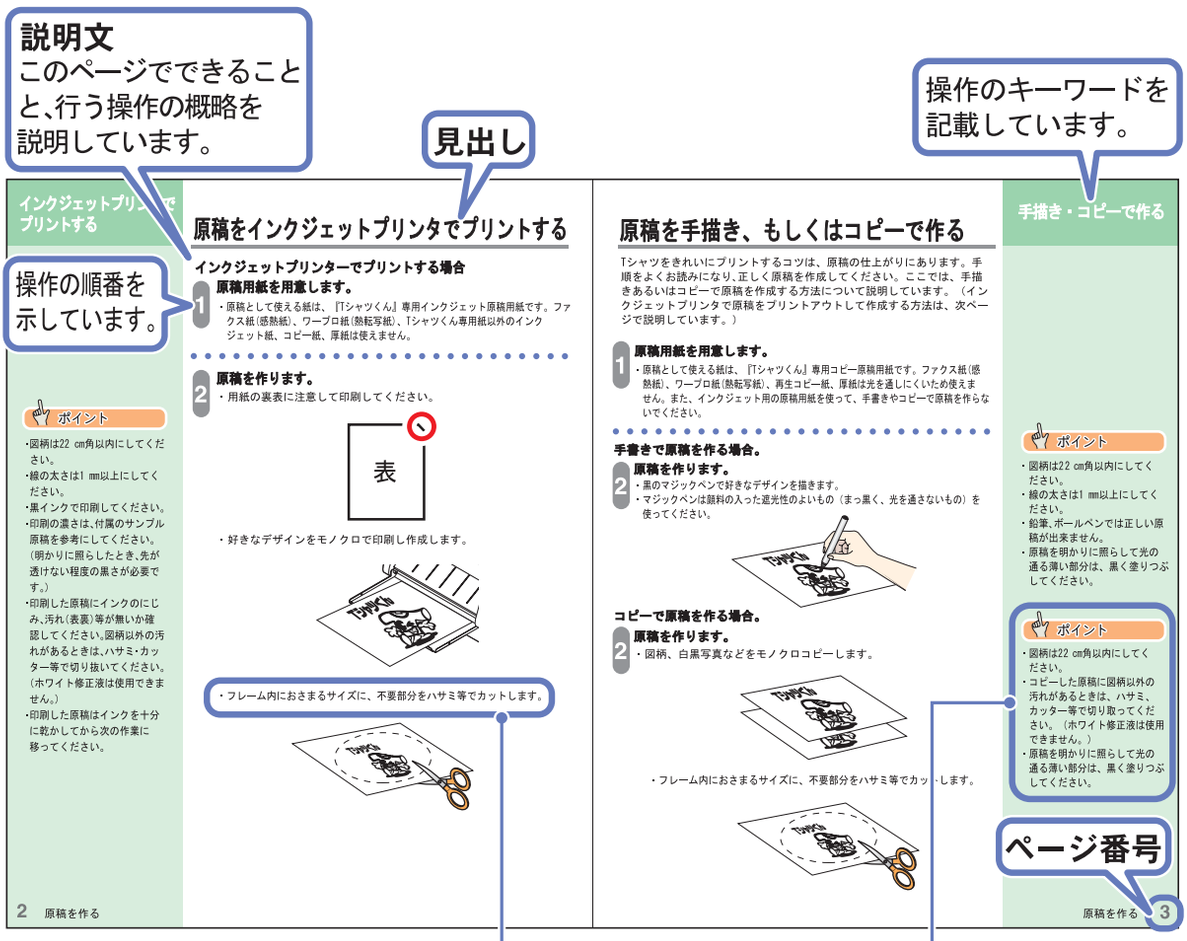
この取扱説明書の見方

本書をお読みになる前に知っておいていただきたいことや、見たい項目の探し方を説明しています。



あらかじめご注意いただきたいこと

この取扱説明書は、「T シャツくん」をお使い頂くためのガイドブックです。太陽精機（株）ホリゾン事業部の「T シャツくん」を初めてお使い頂く方はもちろん、すでに使用経験をお持ちの方も知識や経験を再確認する上でお役に立つものと考えております。この取扱説明書をよくお読みになり、内容をご理解された上でお使いくださいますようにお願いします。また、この説明書を手元に置かれて作業されることをお勧めします。

この製品は改良のために、仕様を変更する場合があります。このため、同一製品においても、「取扱説明書」の記載内容の異なる場合もあり得ますので、製品ごとの「取扱説明書」を混同して使用しないでください。

製品またはこの取扱説明書の内容についてのご質問は、下記までお問い合わせください。

製造・発売元/太陽精機株式会社ホリゾン事業部
〒180-0005　東京都武蔵野市御殿山1-6-4
TEL 0422 (48) 5119（代）　FAX 0422 (48) 5009
京都事業所
〒601-8204　京都市南区久世東土川町242
TEL 075 (921) 9225　　FAX 075 (921) 9217
オリジナルプリントホームページ：http://www.taiyoseiki.com

安全についてのご注意

T シャツくんを安全にご使用いただくには、この取扱説明書に示されている安全に関する注意事項をよくお読みになり、十分に理解されるまで製版、印刷作業を行わないでください。

取扱説明書に示した操作法および安全に関する注意事項は、T シャツくんを指定の方法で使用する場合に有効なものです。この取扱説明書外の使用、取扱いを行う場合の安全に対する配慮は、すべてご自分の責任とお考えください。

この取扱説明書及び製品への表示では、製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	もしお守りいただかないと人身事故につながる恐れのある注意事項は「警告」という見出しで掲げてあります。
⚠ 注意	もしお守りいただかないと機械の破損や故障につながる恐れのある注意事項は「注意」という見出しで掲げてあります。

[絵表示の意味]

△　絵表示は警告・注意を促す内容があることを示すものです。

例： 感電注意

絵表示は禁止の行為であることを示すものです。

例： 分解禁止

絵表示は行為を規制したり指示する内容を示すものです。

使用上のご注意

正しく安全にお使い頂くために、下記の事項を特にご注意ください。

⚠ 警告	
	この機器は分解しないでください。内部には電圧の高い部分があり感電の恐れがあります。また、故障のときは速やかに弊社に修理を依頼してください。
	フタを開けたままランプを灯さないでください。ランプから紫外線が出て、目を悪くする恐れがあります。
	T シャツくん専用インク、専用修正液には溶剤が使ってあります。風通しの良い場所でお使いください。
	T シャツくん専用スプレーのりを使用のときは、換気を十分に行ってください。
	インクは口に入れないでください。

⚠ 注意	
	長時間本機を使わないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントより抜いてください。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。(必ずプラグを持って抜いてください。)
	お手入れの際は、シンナーやベンジンなどは使用しないでください。ケースの変形や変色の原因になります。
	ランプボックスのフタをつかんで持ち上げないでください。フタが破損し使えなくなります。

⚠ 注意	
	次のような場所でのご使用や保存はおやめください。 ・直射日光のあたるところ。 ・ほこりの多いところ。 ・振動の多いところ。 ・ストーブやスチームの近くなど、極端に温度や湿度の高いところ。 ご使用の目安となる温度、湿度はそれぞれ 10 ～ 35 ℃、20 ～ 80%です。
	ぐらついた台や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
	水銀灯・ハロゲンランプ・ビームライト・スポットライト・太陽光の入る場所（窓のある部屋）で製版作業はしないでください。
	スクリーン・原稿用紙・インク・スプレーのり・ピンホール修正液・マスキングテープ等は、T シャツくん専用のものをお使いください。専用以外のものをお使いのときは、保証できません。
	スクリーンは開封後は黒い袋に入れしっかり封をして保管し、開封後 1 年以内で使いきってください。

★イラスト等をコピーするとき、著作権、商標権等に抵触するものもあります。
ご注意ください。

目次

はじめに

この取扱説明書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
あらかじめご注意いただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・2
安全についてのご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
使用上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

ご使用の前に

スクリーン印刷のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
きれいなスクリーンを作るために・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
各部の名称とはたらき・仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
T シャツ作成の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
T シャツくんのセット内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

原稿を作る

原稿を手描き、もしくはコピーで作る・・・・・・・・・・・・・・・・13
原稿をインクジェットプリンターでプリントする・・・・・・・・・・・14

スクリーンを作る

スプレーのりをつける・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
フレームにスクリーンを張る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
原稿をスクリーンに貼る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
ランプボックスにセットする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
露光する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
水でブラッシングする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
水をふき取る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

プリントする

スクリーンをセットする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
プリントする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
T シャツを乾かす・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

こんなこともできます

２枚以上プリントする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
多色プリントする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

こんなときは

絵柄が全く出てこない、あるいは絵柄が
　白くぼんやりと映るものの抜けてこない（透明にならない）・・・31
絵柄の一部が抜けない（絵柄の一部が透明にならない）・・・・・・・34
絵柄の回りが崩れる　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
スクリーンを水に濡らすと全体的に崩れる・・・・・・・・・・・・・・37
原稿以外のところが抜ける（穴が開く）・・・・・・・・・・・・・・・38
こんなときには・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
お手入れの方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

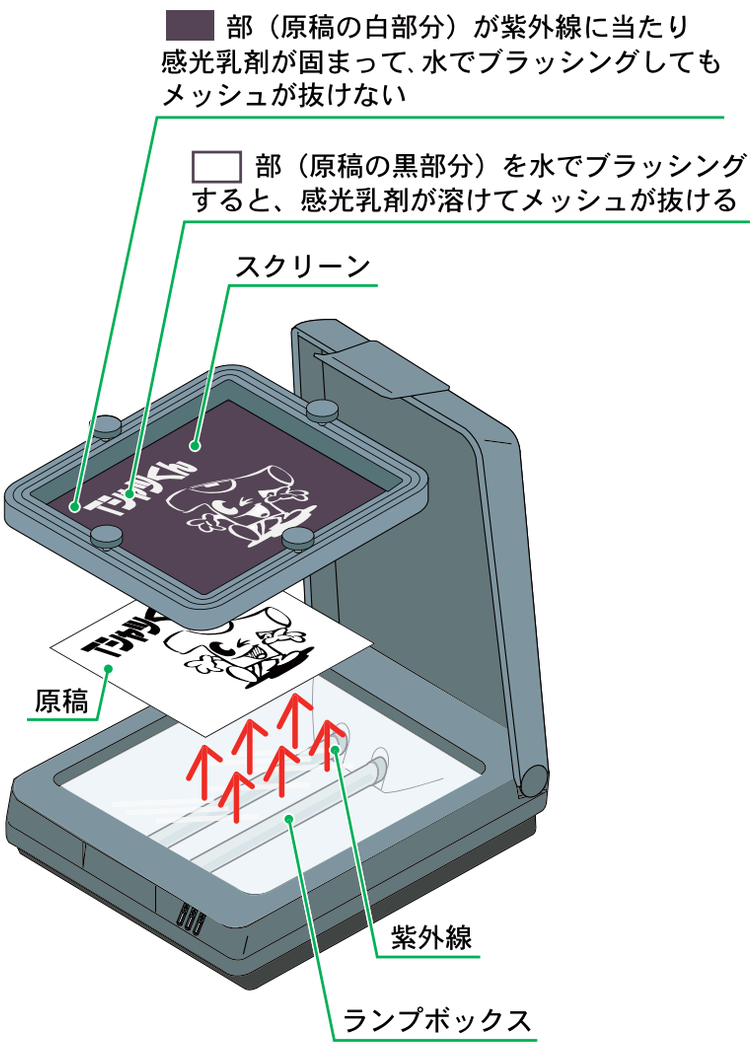
付録

インクとスクリーンの説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
オプション品の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
索引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

スクリーン印刷のしくみ

ここでは、スクリーン印刷のしくみについて説明しています。

●Ｔシャツくん専用スクリーンに塗られている感光乳剤は水に溶けます。
●スクリーンに紫外線をあてることで感光乳剤が固まり、水に溶けなくなります。
●原稿の上にスクリーンをのせて下から『露光する』ことで、原稿の白部分は紫外線を通してその上のスクリーンがやきつけられ、メッシュが抜けなくなります。逆に原稿の黒部分は紫外線を通さず、その上のスクリーンの感光乳剤は水に溶けてメッシュが抜けます。メッシュが抜けたところ（原稿の黒の部分）はインクを通すことになります。



きれいなスクリーンを作るために

きれいなスクリーン版を作るために、必ず守ってください。ポイントは原稿作りと作業場所の環境です！

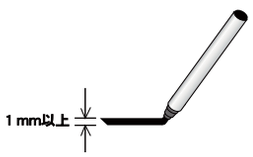
1）原稿は、専用の原稿用紙を使用すること
2）原稿は、線幅 1㎜ 以上で真黒に描くこと
3）スクリーンを扱う作業（印刷を除く）は、紫外線の入らない場所で行うこと
が最重要ポイントです！！

原稿について

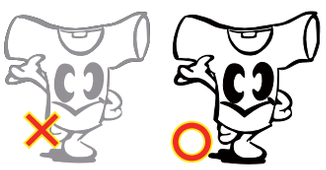
ポイント

・使用されている紙の種類が不明であるため、セルフコピーにてコピーをとることはお勧めしません。
・コピー機を使用する場合は、手差しにて「T シャツくん専用原稿用紙」に白黒コピーをとってください。
・「T シャツくん専用原稿用紙」は上質コピー紙 55kg（64 g／ ㎡）を利用しておりますので、コピー専門店にお問い合わせください。しかし、専用原稿用紙以外のものをお使いのときは保証できません。

●手描きの場合は、必ず付属の「T シャツくん専用原稿用紙」をご使用ください。顔料入りの真黒なマジックペンで 1㎜ 以上の線幅になるように描いてください。



●レーザープリンタ出力の場合は、必ず付属の「T シャツくん専用原稿用紙」をご使用ください。すべての線幅が 1㎜ 以上になるようにデザインし、黒ベタで出力してください。



●インクジェットプリンタ出力の場合は、必ず付属の「インクジェット専用原稿用紙」をご使用ください。すべての線幅が 1㎜ 以上になるようにデザインし、黒ベタで出力してください。
●２種の専用原稿用紙（手描き・コピー／ レーザプリンタ出力用、インクジェットプリンタ出力用）は、消耗品としてご用意しております。きれいなスクリーン版を作成するためには必ずご使用ください。

スクリーン作成について

ポイント

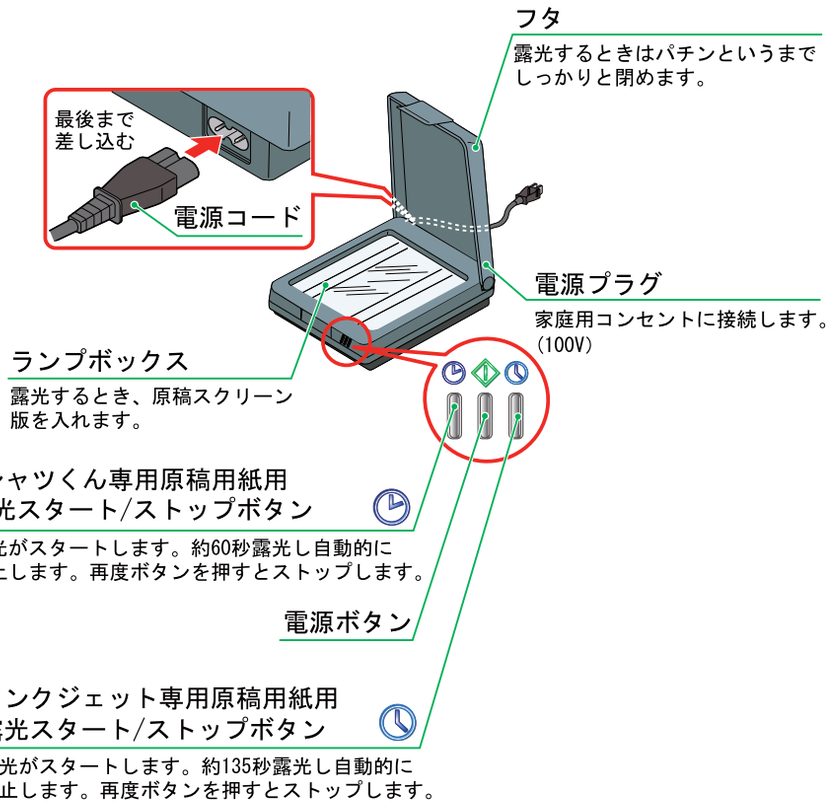
・スクリーンは袋から 1 枚ずつ取り出してご使用ください。

感光スクリーンを使用しているため、紫外線の入る場所での作業はできません。

●作業場所に窓がある場合　→　必ず窓に厚手のカーテンを閉めて外からの光を防いでから作業をしてください。（雨・曇りの日でも必ずカーテンを閉めてください。また、光を通すようなカーテン（例：レースカーテン、薄手カーテンなど）では光の遮断が不十分となり、失敗の原因となります。
●作業場所に電灯がある場合　→　電灯（蛍光灯・白熱灯）はつけていても作業できます。ただし、蛍光灯からは微量の紫外線が出ているため、蛍光灯の真下を避けた場所で作業してください。
●紫外線の強いランプ（水銀灯、ハロゲンランプ等）のある場合　→　必ずランプを消して作業してください。失敗の原因となります。
●室温が 20 ℃以下のときは、ランプボックスを安定させるために、使用前に露光スタート／ストップボタンを押してランプを数回灯してください。このとき、スクリーンに光があたらないようにしてください。

●まずお試し用スクリーンを使ってテストをしてください。うまくスクリーン版が作成できないときは、弊社までお問い合わせください。

各部の名称とはたらき・仕様



■仕様

名称	T シャツくん
フレームサイズ	25cm X 25cm（内寸）
最大プリントサイズ	約 22cm X 約 22cm
露光	蛍光放電管（ブラックライト）8W 2 燈
電源	AC 100V 50/60Hz 単相
本体寸法	約 34(W) X 37(D) X 12(H)cm
質量	2.4Kg

T シャツ作成の流れ

ここではT シャツ作成の流れと、おおまかな手順について説明しています。
詳細については、各参照先をごらんください。

ポイント

・原稿の黒い部分は、光を通さないように真っ黒に塗りつぶしてください。塗り潰しが十分でないと紫外線に感光して『やきつけ』られ、インクが通らなくなってしまいます。

1. 原稿を作る

1 手描きでつくる 13ページ

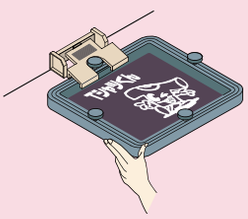
ポイント

2 コピーしてつくる 13ページ

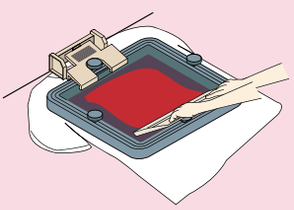
3 プリンターで
プリントしてつくる 14ページ

3. プリントする

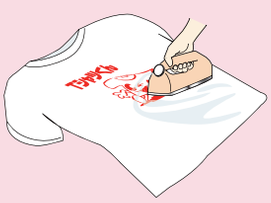
1 スクリーンを
セットする 23ページ



2 プリントする 24ページ

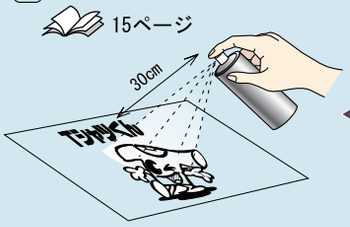


3 乾かす 25ページ

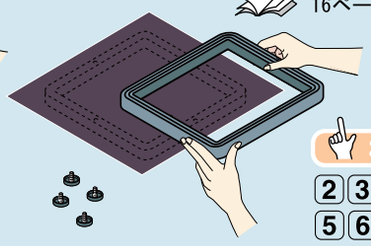


2. スクリーンを作る

1 スプレーのりをつける
15ページ



2 フレームにスクリーンを張る
16ページ

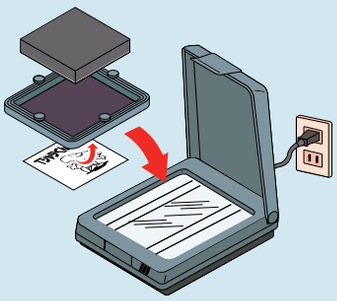


ポイント

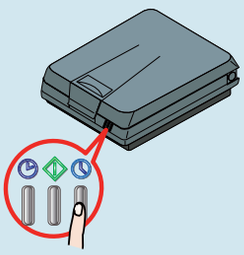
2 3 4
5 6 7 を含む

3 原稿をスクリーンに貼る
17ページ

4 ランプボックスにセットする
18ページ

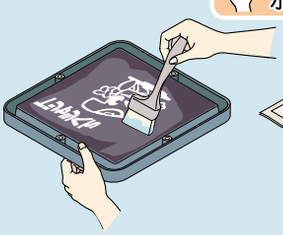


5 露光する
19ページ

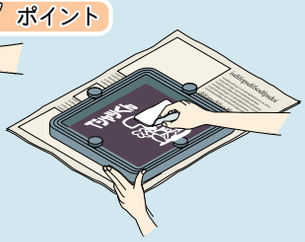


6 水でブラッシングする
20ページ

ポイント



7 水を拭き取る
21ページ



ポイント

・光の入らない場所で作業してください。この時点でスクリーンが感光すると、水でブラッシングしたときスクリーンが抜けなくなります。

ポイント

・スクリーンは水に溶ける性質があります。水をつけてブラッシングすることで、感光しなかった部分（原稿の黒色の部分）が水に溶けて、そこをインクが通って原稿通りの版ができるしくみになっています。

T シャツくんのセット内容

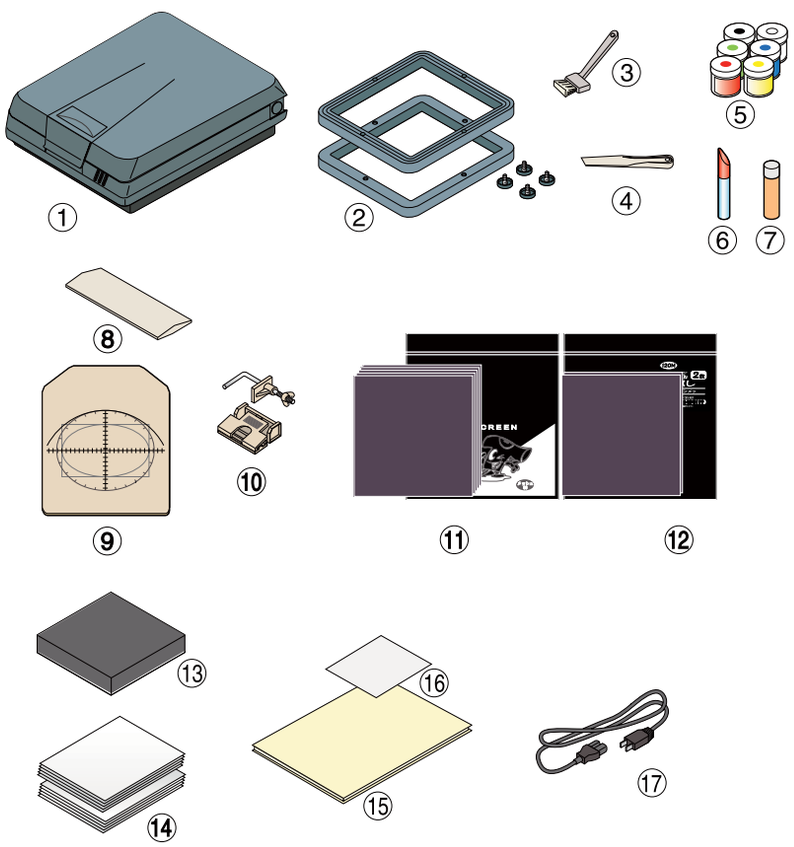
T シャツくんには以下のものが付属されています。

●本体

①ランプボックス（1 台）

●付属品

②フレーム（内枠・外枠・ネジ 4 本：1 組）
③ハケ（グレー：1 本）
④インク用ヘラ（1 本）
⑤水性一般インク 50ｇ 入（黄・赤・白・青・黒・緑：各 1ヶ）
⑥ピンホール修正液（1 本）
⑦専用スプレーのり（1 本）
⑧スキージ（印刷用ヘラ・大：1 枚）
⑨プリントパネル（1 枚）
⑩クランプ（1 組）
⑪ミドルスクリーン（120 メッシュ、5 枚入り：1 組）
⑫お試し用スクリーン（120 メッシュ、2 枚入り：1 組）
⑬ミドルスポンジマット（1ヶ）
⑭『T シャツくん』専用原稿用紙（手描き・コピー用）/
『T シャツくん』インクジェット専用原稿用紙（各 5 枚）
⑮取扱説明書（本書）
⑯保証書（1 枚）
⑰電源コード（1 本）



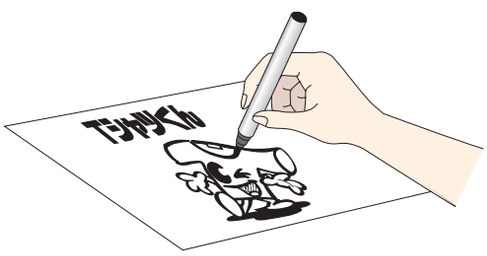
原稿を手描き、もしくはコピーで作る

T シャツをきれいにプリントするコツは、原稿の仕上がりにあります。手順をよくお読みになり、正しく原稿を作成してください。ここでは、手描きあるいはコピーで原稿を作成する方法について説明しています。（インクジェットプリンタで原稿をプリントアウトして作成する方法は、次ページで説明しています。）

1 **「T シャツくん専用原稿用紙」を用意します。**
・規定外の用紙では、きれいなスクリーンができません。

手描きで原稿を作る場合

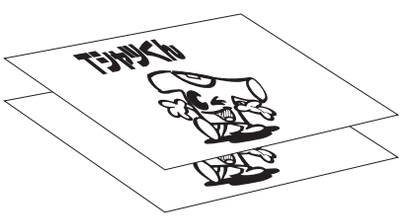
2 **原稿を作ります。**
・黒のマジックペンで好きなデザインを描きます。
・マジックペンは顔料の入った遮光性のよいもの（まっ黒く、光を通さないもの）を使ってください。



ポイント
- 図柄は 22 ㎝角以内にしてください。
- 線の太さは 1 ㎜以上にしてください。
- 鉛筆、ボールペンでは正しい原稿が出来ません。
- 原稿を明かりに照らして光の通る薄い部分は、黒く塗りつぶしてください。

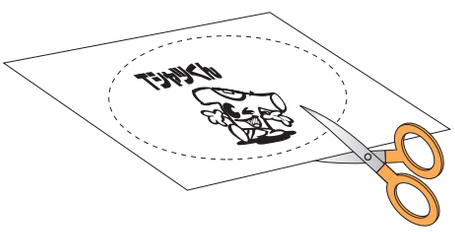
コピーで原稿を作る場合

2 **原稿を作ります。**
・図柄、白黒写真などをモノクロコピーします。



ポイント
- 図柄は 22 ㎝角以内にしてください。
- コピーした原稿に図柄以外の汚れがあるときは、ハサミ、カッター等で切り取ってください。（ホワイト修正液は使用できません。）
- 原稿を明かりに照らして光の通る薄い部分は、黒く塗りつぶしてください。

・フレーム内におさまるサイズに、不要部分をハサミ等でカットします。



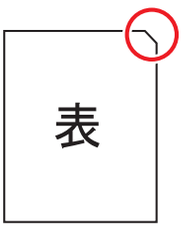
原稿をインクジェットプリンターでプリントする

1 **「T シャツくん専用インクジェット原稿用紙」を用意します。**

・専用紙以外では、きれいなスクリーン版ができません。

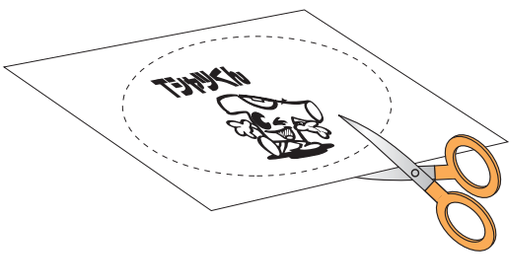
2 **原稿を作ります。**

・用紙の裏表に注意して印刷してください。



・好きなデザインをモノクロで印刷し作成します。

・フレーム内におさまるサイズに、不要部分をハサミ等でカットします。



ポイント

・図柄は 22 ㎝角以内にしてください。
・線の太さは 1 ㎜ 以上にしてください。
・黒インクで印刷してください。
・印刷の濃さは、付属のサンプル原稿を参考にしてください。（明かりに照らしたとき、先が透けない程度の黒さが必要です。）
・印刷した原稿にインクのにじみ、汚れ（表裏）等が無いか確認してください。図柄以外の汚れがあるときは、ハサミ・カッター等で切り抜いてください。（ホワイト修正液は使用できません。）
・印刷した原稿はインクを十分に乾かしてから次の作業に移ってください。

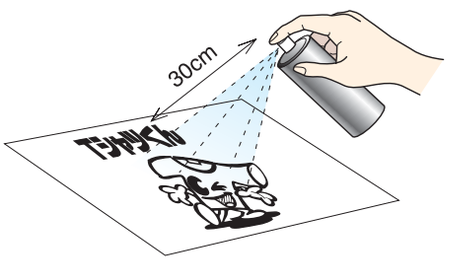
できあがった原稿の図柄面に、専用スプレーのりを吹き付けます。

1 スプレーのりを吹き付けます。

・原稿の印刷面（表面）にのりを吹き付けます。
・スプレーのりはよく振ってから、約 30 ㎝ 離してむらなく吹きかけてください。

⚠ 警告

専用スプレーのりを使うときは、換気を十分してください。



ポイント

・スプレーのりがダマにならないようにしてください。ダマ部分は、きれいなスクリーン版ができません。

2 1 ～ 2 分待ちます。

・スクリーンの感光乳剤がのりの溶剤で変質しないように、1～2分の蒸発時間が必要です。

ポイント

・のりの水分が蒸発していないと、スクリーンに不要な穴があくことがあります。
・のりの溶剤が蒸発していないと、スクリーンの感光乳剤が変質し、ブラッシングしたときに絵柄が抜けないことがあります。

フレームにスクリーンを張る

ポイント

・太陽光の入る場所（窓のある部屋）で製版作業はしないでください。窓のある場所では、カーテン・ブラインドをして作業してください。（曇り、雨の日でも紫外線が含まれます。）
・まずお試し用スクリーンを使って、テストしてください。うまく製版できないときは、弊社までお問い合わせください。
・スクリーンは開封後は黒い袋に入れ、しっかり封をして保管し、1年以内に使いきってください。

重要

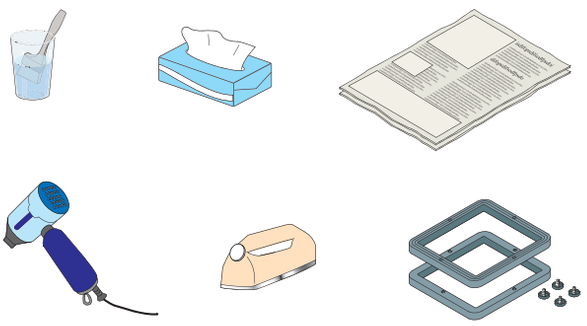
・スクリーンをフレームに張る前に、コップには水を入れてハケを浸しておいてください。一度使用したコップは飲料用としては使用できなくなりますので、ご注意ください。

⚠ 注意

作業をする前に、太陽光（紫外線）が入っていないことを確かめてください。ここから、水をふき取る（21 ページ）までは、すばやく作業を行ってください。スクリーンが感光してしまうと、インクが通らなくなり、うまくプリントすることが出来ません。
開封後のスクリーンは紫外線のあたらない場所で保管し、1 年以内に使い切ってください。高温多湿の場所や紫外線のあたる場所に保管したり、開封後 1 年以上たってしまうと、スクリーンに絵柄がうつりません。

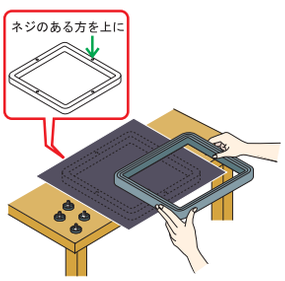
1 準備をします。

・ハケ、水の入ったコップ、ティッシュペーパー、新聞紙、ドライヤー、アイロンを使用します。スクリーンを袋から出す前に準備しておいてください。フレームは内枠と外枠をはずしておいてください。



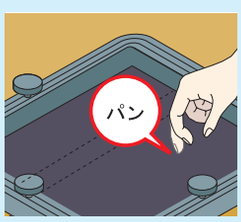
2 内枠に専用スクリーンをのせ、外枠をはめ込みます。

・スクリーンを黒袋から 1 枚取り出します。（残りのスクリーンが感光しないように、ファスナーをしっかり閉めましょう。）
・スクリーンに裏表はありません。
・空気の圧力でスクリーンが膨らんでしまうことがあります。スクリーン枠を持ち上げるか、机から枠の端を出してはめ込んでください。
・この時点では、スクリーンはピンと張れていなくても大丈夫です。次の手順でネジを締めることでスクリーンはピンと張れます。



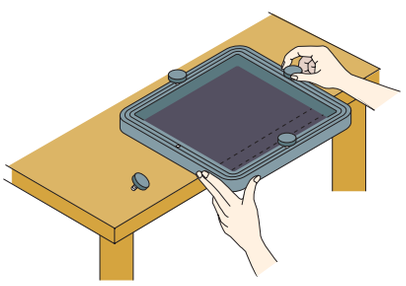
ポイント

・指ではじいたとき、パンという音がしたら正しく張れています。



3 ４箇所のねじをしっかり締めます。

・ネジを強く押しつけながらスクリーンに穴をあけて、それからネジを締めてください。対角に締め付けるとスクリーンをきれいに張ることが出来ます。

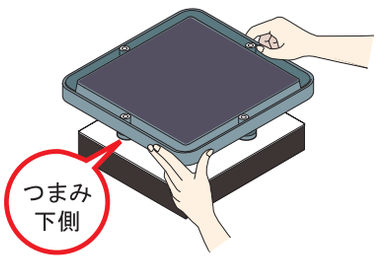


原稿をスクリーンに貼る

原稿とスクリーンをきちんと密着させることが重要です。

1 スポンジマットの上にフレームをかぶせます。

・スポンジマットは、白面を上にしてください。



2 原稿をスクリーンに貼ります。

・スクリーンの上にのりを吹きつけた印刷面（表面）を下にして、原稿がシワにならないように貼ります。

3 スクリーンと原稿が密着するように手でしっかり原稿を押しつけます。

ポイント

- 原稿ののりの水分・溶剤が蒸発したことを確かめてから原稿をスクリーンに貼ります。のりの水分が蒸発していないと、スクリーンに不要な穴があくことがあります。また、のりの溶剤が蒸発していないと、スクリーンの感光乳剤が変質し、ブラッシングしたときに絵柄が抜けないことがあります。
- 原稿を貼り付ける面をまちがえると、スクリーンに絵柄が出ず、失敗になります。
- 原稿にシワがあったり、スクリーンと原稿の間にすきまがあると、きれいなスクリーン版が出来ません。

重要

- 製版後のスクリーンの再生はできません。

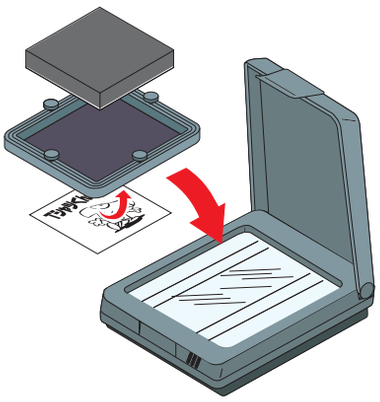
ランプボックスにセットする

ポイント

・ランプボックスのアクリル面が汚れないよう注意しましょう。汚れているときれいな製版ができません。汚れてしまった場合は、40ページを参照してください。

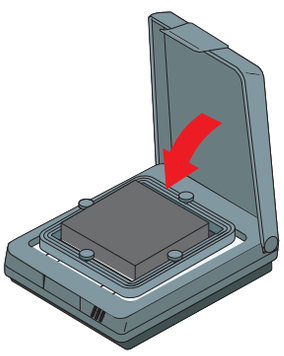
1 原稿を貼ったフレームを、ランプボックスにセットします。

・スクリーンの原稿を貼り付けた面とランプボックスのアクリル面を合わせて、その上にスポンジマットをセットしてください。



2 ふたを閉めます。

・パチンというまでしっかりと閉めてください。



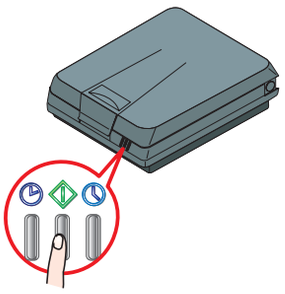
露光する

スクリーンに光を当てて、感光させます。

1 **電源プラグをコンセントに接続します。**

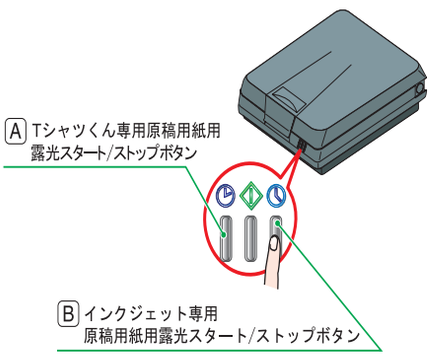
2 **電源ボタンを押します。**

・中央の緑色のランプが点灯します。



3 **露光をスタートします。**

・原稿用紙の種類によってスタートボタンが異なります。



A：『 T シャツくん』専用原稿用紙の場合：

向かって左側の露光スタート / ストップボタンを押します。青色のランプが点滅し、約 60 秒露光されます。ランプの点滅が消えると、露光完了です。

* 露光中に、露光を停止させたいときは、もう一度露光スタート / ストップボタンを押します。（ただし、途中で露光を停止しますと、スクリーンの感光不十分となることがあります。ご注意ください。）

B：『 T シャツくん』インクジェット専用原稿用紙の場合：

向かって右側の露光スタート / ストップボタンを押します。青緑色のランプが点滅し、約 135 秒露光されます。ランプの点滅が消えると、露光完了です。

* 露光中に、露光を停止させたいときは、もう一度露光スタート / ストップボタンを押します。（ただし、途中で露光を停止しますと、スクリーンの感光不十分となることがあります。ご注意ください。）

⚠ 警告

フタを開けたままランプは灯さないでください。ランプから紫外線が出ています。目を悪くする恐れがあります。

ポイント

・フタが閉まっていないと、露光不良の原因になります。

重要

・『T シャツくん』インクジェット専用原稿用紙を使用し、左側の T シャツくん専用コピー原稿用紙のタイマーを使用すると、露光不足になります。
・また反対に、『T シャツくん』専用コピー原稿用紙を使用し、『T シャツくん』インクジェット専用原稿用紙のタイマーを使用すると、露光のしすぎになります。ボタン選択は間違わないようにしてください。

水でブラッシングする

水をつけてブラッシングすることで、感光しなかった部分（原稿の黒色の部分）を溶かして、インクが通るようにします。

ポイント

- 水銀灯・ハロゲンランプ・ビームライト・スポットライト・太陽光の入る場所（窓のある部屋）で現像作業はしないでください。スクリーンが感光すると、製版できなくなります。（水でブラッシングしても何も写りません。）

1 スクリーンを取り出して原稿をはずします。

・露光中を示すランプの点滅が消えたことを確認し、スクリーン版を取り出し原稿をはずします。

2 ハケに少量の水をつけて、スクリーン版の両面をぬらします。

・少し（5 ～ 10 秒間位）待つと、図柄が白く浮き出てきます。

ポイント

- やさしくブラッシングしてください。強くブラッシングしすぎると、スクリーンに穴が開いてしまう場合があります。又、印刷時に穴の開いた部分からインクがはみ出て T シャツを汚すことがあります。
- 絵柄のまわりにピンホールができ出したら、ブラッシングのしすぎです。
- フレームがはずれなくなった場合は、39 ページを参照してください。

3 やさしく両面をブラッシングします。

・図柄の部分だけ両面からやさしくブラッシングをしてください。白い図柄がぬけてすきとおるまで、水を付け直してブラッシングを行ってください。

⚠ 警告

感光乳剤の溶けた水が手などについたときは、すぐに、石けん水で洗い流してください。

⚠ 注意

フレーム内に水が入らないように、平らに持ってください。フレームに水が入るとフレーム内のスクリーンの感光乳剤が溶けて固まり、スクリーンがフレームから外れなくなることがあります。また、印刷時に穴のあいた部分からインクがはみ出て、T シャツを汚すことがあります。

水をふき取る

スクリーンの水を拭き取り、スクリーンが正しく抜けているか確認します。

1 スクリーンの水をふき取ります。

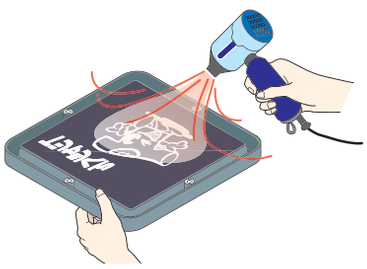
・新聞紙の上にスクリーン版をおき、表面よりティシュで水をふきとってください。

2 スクリーンをチェックします。

・ふきとりが終われば、原稿通り図柄が抜けているかチェックし、抜けていないところがあれば、もう一度水をつけてブラッシングをしてください。(スクリーン版を水でぬらさないとスクリーンは抜けません。)

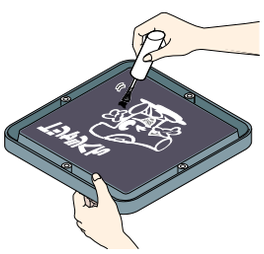
3 ティッシュで水をふき取り、乾かします。

・裏面のふきとりは、やさしくおさえるようにしてください。強くふきすぎるとスクリーンがやぶれることがあります。
・自然乾燥か冷風ドライヤーで乾かします。



4 不要な穴が開いていないかチェックします。

・光に照らして不要な穴があいていれば、ピンホール修正液を裏面より塗り、穴をふさぎます。



⚠ 警告

ピンホール修正液は溶剤が含まれています。風通しの良い場所でお使いください。

ポイント

・このとき水をしっかり拭き取らないとスクリーンの目に水がつまって、スクリーンが抜けていないように見えます。

重要

・チェックは大切な作業です。きちんとスクリーンが抜けていてはじめて、原稿どおりのプリントが可能になります。
・長い間スクリーンを表に出しておくと、感光剤が抜けにくく(溶けにくく)なります。手早く作業を行ってください。

重要

・ドライヤーで乾かした後に図柄の抜けていない箇所が見つかっても、ブラッシングでスクリーンを抜くことはできません。

重要

・露光時、ゴミが原稿についていたり、ブラッシングのしすぎにより、ピンホールが発生することがあります。印刷前に必ずピンホールのチェックを行ってください。

ポイント

・スクリーンのブラッシング終了後、ハケは水でよく洗い、汚れを落としておきましょう。(そのままにしておくとハケが固くなります。)

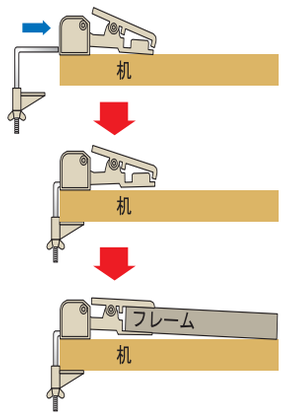
このページはブランクページです。

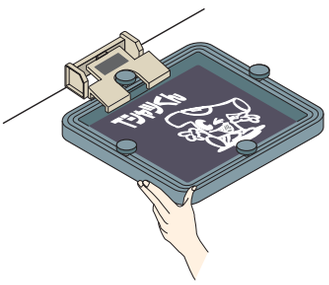
スクリーンをセットする

スクリーンを、動かないように固定します。

1 クランプを机に取り付けます。

・机の端を利用してクランプを取り付けます。



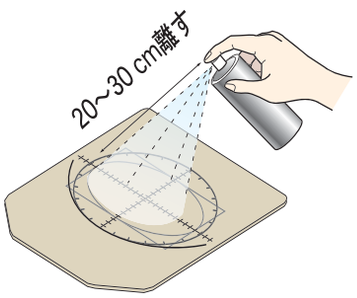


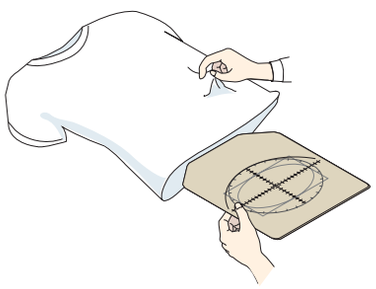
ポイント

・クランプを取り付けることができる机の天板の厚みは、40㎜までです。
・フレームが机から浮いた状態になります。

2 プリントパネルに専用スプレーのりを吹きつけ、Tシャツに貼ります。

・プリントパネルに専用スプレーのりを吹き付け、Tシャツをプリントパネルに通し、シワにならないようにていねいに貼り付けます。





ポイント

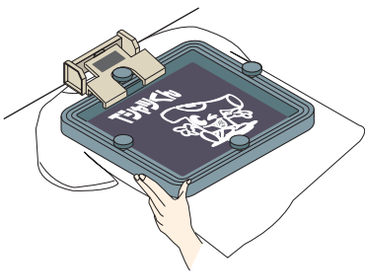
・プリントパネルの目盛りを目安にして、印刷時の位置決めをします。

⚠ 警告

専用スプレーのりを使うときは十分に換気をしてください。

3 スクリーンをセットします。

・クランプにスクリーンのフレームをはさみます。



プリントする

インクをのせて、プリントします。

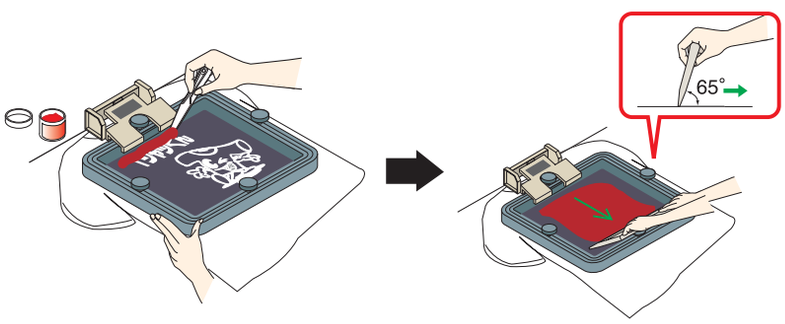
1 Tシャツの位置（プリントする位置）を決めます。

2 インクをのせます。

・図柄の上方に専用インクを適量出します。インクは図柄の幅より少し広いめにのせます。
・

3 インクをのばします。

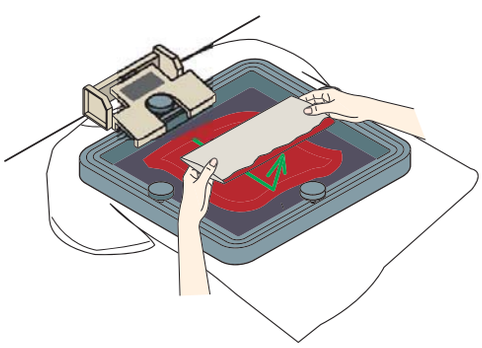
・両手でスキージを 65 度傾けて、下に押しつけながらゆっくりと引きます。
・インクが乾く前に速やかにプリントしてください。



ポイント

- スキージを傾けすぎると、プリントできません。
- インクのふたは、長時間開けておかないでください。

・余ったインクはスキージやヘラですくいとり、インク容器に戻します。
・うまくプリントできないときは「こんなときは」（31 ページ～）を参照してください。

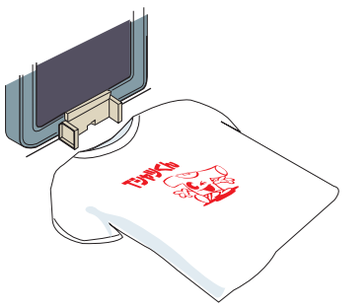


T シャツを乾かす

インクが乾くまで、T シャツを乾かします。

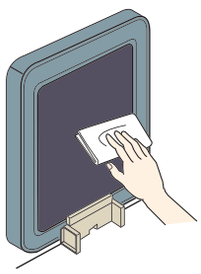
1 スクリーンを持ち上げます。

・刷り終ったら、そっとスクリーンを真上に持ち上げてください。



2 スクリーンのインクを拭き取ります。

・刷り終ればただちに目づまり防止のために、スクリーンの裏側から水を含ませたティッシュなどで、スクリーン版のインクを拭き取ってください。インクが乾かないうちにふき取るようにしてください。
・スクリーン版をぬれたティッシでふき取ったあとは、再度乾いたテッシュで拭き取り良く乾かしてください。

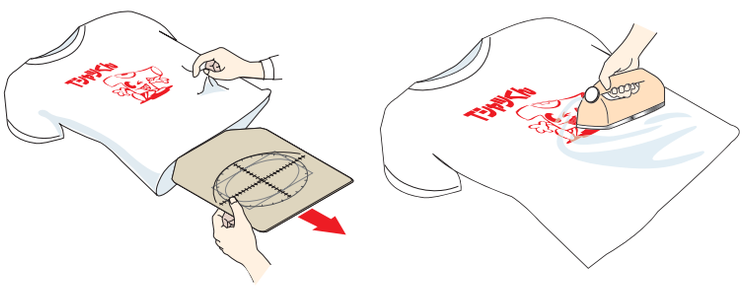


⚠ 注意

ティッシュは必ず水を含ませてからスクリーン版をふきとってください。乾いたティッシュでふきとると、目づまりを除去できないだけでなく、ティッシュが毛羽立ってしまい、スクリーン版が汚れて使えなくなります。

3 乾いたら、プリントパネルをはずしてアイロンをかけます。

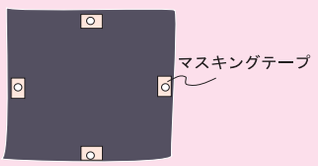
・手にインクがつかなくなったら（30 ～ 40 分程度）、T シャツをプリントパネルから外して、ドライアイロンを中温で 2 ～ 3 分かけてください。



・オリジナル T シャツのできあがりです。

ポイント

・スクリーンの保管
使用したスクリーンはフレームからはずして保管することもできます。再度使用するときはスクリーンの穴を専用マスキングテープでふさいでください。穴をふさがないとピンと張ることができません。



重要

・ドライアイロンをかける時間が短かったり、温度が低いと、洗たくをすると色落ちする可能性があります。

このページはブランクページです。

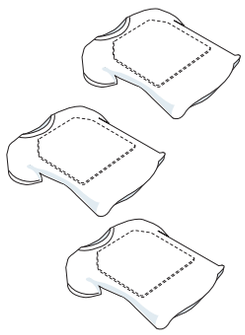
２枚以上プリントする

（同色で２枚以上プリントする場合）

1 プリントパネルを数枚用意します。

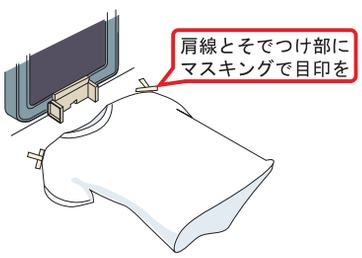
2 プリントパネルを貼ります。

・プリントパネルにスプレーのりを吹き付け、T シャツをプリントパネルに通し、シワにならないように貼り付けて準備しておきます。



3 T シャツの肩線とそでつけ部にマスキングで目印をつけます。

・同じ位置に印刷をするためです。



4 プリントします。（24 ページ）
インクが乾かないうちにつぎつぎと印刷を行ってください。

（同じスクリーン版で、違う色でプリントする場合）

手順 1 から 4 は上と同じです。

5 インクをふき取ります。

・水性インクの場合：スクリーン版の裏面のインクをきれいにふきとり、完全に乾かすと、別の色で印刷しても色が混ざらずにプリントすることができます。

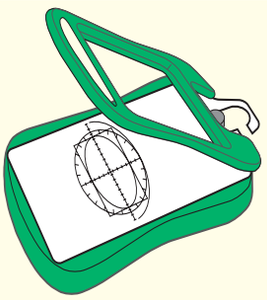
・油性 / マルチインクの場合：ふきとり＆うすめ液を用いて、両面のインクをふきります。完全に乾かした後、別の色で印刷できます。

・ナイロンインクの場合：ナイロンインク用専用溶液を用いて、両面のインクをふき取ります。完全に乾かした後、別の色で印刷できます。

6 新しい色のインクをのせてプリントします。

ポイント

・多枚数プリントには、オプションの T シャツくん専用印刷機 T-beans が便利です。



ポイント

・インク詰まりが起こり始めたら、水を含ませたテッシュでスクリーン版の裏面よりインクをふきとり、完全に乾燥させたあと再び印刷を行ってください。

多色プリントする

多色プリントのポイント

1．多色プリント原稿のつくり方：うすく明るい色で刷る原稿は少し大きめにして、濃い色で刷る原稿と重なるようにします。ふちどり線がある場合は、太い線にしてベタとの重なりを多くします。（下図参照）

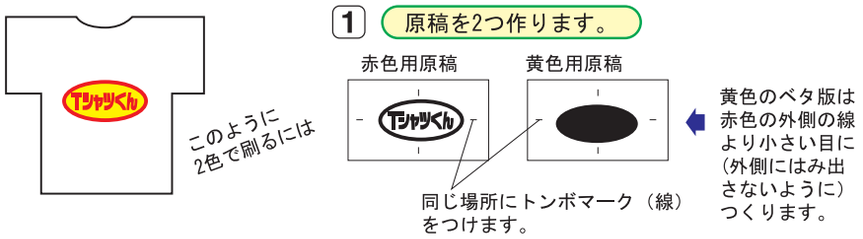
2．位置合わせの方法：トンボマーク（下記参照）により位置合わせをします。

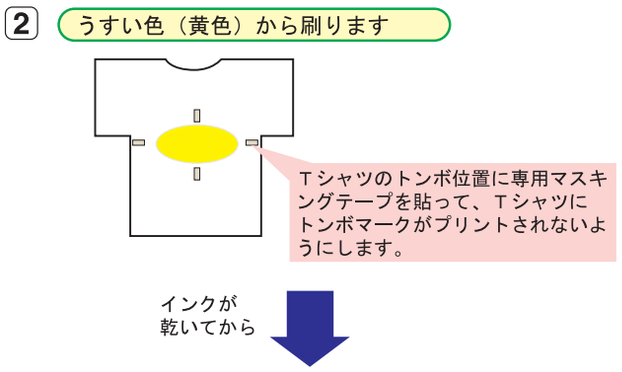
3．多色プリントの方法：うすく、明るい色から順に刷ると、きれいに刷れます。

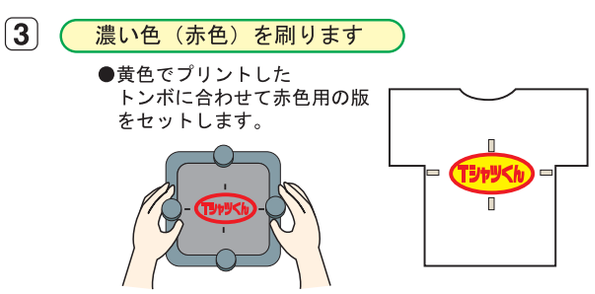
ポイント

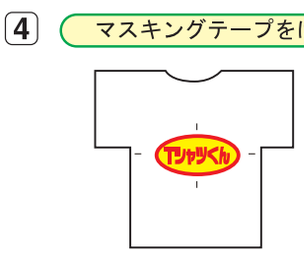
- **T シャツのトンボマークの部分にＴシャツくん専用マスキングテープを貼っておきます。トンボが印刷されてしまうのを防ぐためです。**
- **プリントパネルは最後の色を印刷するまで、T シャツからはがさないようにします。**

（2 つ以上のスクリーン版で多色プリントする場合）



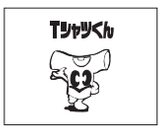




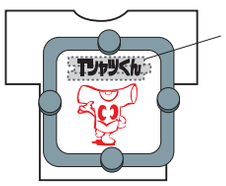


（1 版で多色刷りをするとき）

1 原稿をつくります。

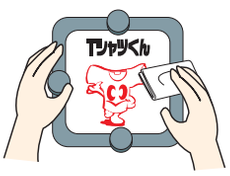


2 1色目（赤色）を刷ります



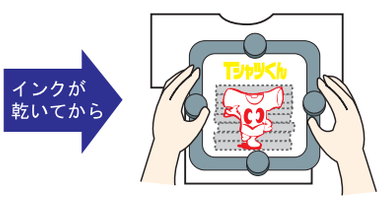
●他の色にしたい部分を裏からマスキング
してから一色目を刷ります。

3 クリーニングします。



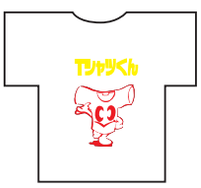
●スクリーン版をクリーニング
します。
●刷り終えた部分に裏からマスキング
します。

4 2色目（黄色）を刷ります



●印刷済みの図柄にあわせて位置を
決めて刷ります。

5 できあがり!!



●1版で多色刷りがきれいに
できます。

ポイント

- **他の色で刷る部分をＴシャツくん専用マスキングテープで、裏からふさいでおきます。**
- **一色刷り終った部分をマスキングテープでふさぎ、次に刷る部分のマスキングをはがして刷ります。**

このページはブランクページです。

Q1

絵柄が全く出てこない、あるいは絵柄が白くぼんやりと映るものの抜けてこない（透明にならない）

スクリーンの不良ではありません。
製版前あるいは製版作業中にスクリーン全体が感光したときに起こる現象です。
次の項目をチェックしましょう。

■環境と作業手順のチェック

1 ）スクリーン保管状態のチェック

1-1）未開封のスクリーンをお使いの場合、保管状態を確認しましょう。高温多湿場所で保管されるとスクリーンが使えなくなってしまいます。

1-2）未開封スクリーンの保管状態が良かった場合、2）以降のチェック欄を参照してください。

1-3）開封されたスクリーンをお使いの場合、スクリーンの入っている黒袋のファスナーが開いたままではなかったでしょうか？
袋が開いたままだと、スクリーンが自然に感光されて使えなくなってしまいます。残ったスクリーンは黒袋に戻し、しっかり封をして、開封後できるだけ１年以内にお使いください。

1-4）作業途中、スクリーンが黒袋から出したままでなかったでしょうか？
スクリーンは自然に感光されて使えなくなってしまいます。黒袋から出したスクリーンは、フレーム貼り～ブラッシング～乾燥させる、までスピーディに作業しましょう。

2 ）紫外線の入らない場所かどうかのチェック

2-1）窓のある部屋（外の光の入る場所）では厚手のカーテンを閉めて作業していますか？
紫外線によってスクリーンが感光してしまいます。曇り・雨の日でも必ず窓に厚手のカーテンを閉めてから作業しましょう。

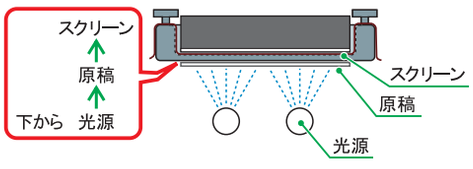
2-2）近くにスポットライト・ハロゲンライト・ビームライト・水銀灯などが点灯していませんか？
紫外線によってスクリーンが感光してしまいます。強い紫外線の出るライトは必ず消してから作業しましょう。

3 ）原稿とスクリーンは密着していますか？

スクリーンと原稿の間に隙間があると、きれいに焼き付けられません。
原稿は、専用スプレーのりでぴったりとスクリーンに貼りましょう。（17 ページ参照）

4 ）原稿をスクリーンに貼り付ける位置は合っていますか？

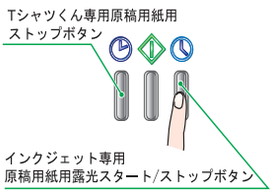
原稿をスクリーンに貼り付ける位置が裏表だと、このような結果となります。
原稿・フレーム（スクリーン）・マットの順番も確認しましょう。（17 ページ参照）



絵柄が全く出てこない、あるいは絵柄が白くぼんやりと映るものの抜けてこない（透明にならない）（続き）

5 ）感光時間は合っていますか？

ランプボックスでの時間設定が長すぎるとこのような結果となります。原稿用紙の種類に応じた感光時間設定にしましょう（19 ページ参照）



6 ）ブラッシングのチェック

6-1）ブラッシングをしましたか？

T シャツくんのスクリーンは、水で濡らし、ブラッシングして初めて版が抜けます。ランプボックスから取り出したら、紫外線の入らない場所でブラッシング作業を行いましょう。（20 ページ参照）

6-2）露光後、すぐにブラッシングしましたか？

ランプボックスからスクリーン版を取り出したら、その場ですぐにブラッシングしましょう。水場までスクリーン版を移動させるとその間に感光してしまいます。すぐにブラッシングできるように、あらかじめ水を入れたコップを用意しておきましょう。（ブラッシング方法は 20 ページ参照）

■原稿のチェック

1 ）原稿用紙は規定の紙でしょうか？

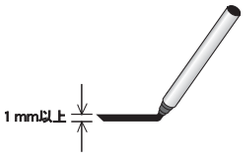
再生紙・厚手のコピー用紙・感熱紙・一般のインクジェット紙など規定以外の用紙は使えません。手描き・コピー／レーザプリンタ出力の場合は、T シャツくん専用原稿用紙をお使いください。インクジェットプリンタ出力の場合は、インクジェット専用原稿用紙をお使いください。２種の専用原稿用紙は、どちらも消耗品としてご用意しております。

＜コピーについて＞

コピーの場合は、T シャツくん専用原稿用紙にコピーをとってください。（あらかじめコピー機にセットされている用紙は原稿として不向きです）T シャツくん専用原稿用紙は普通コピー紙 55 k（64 g / ㎡）を使用しておりますので、コピー専門店にお尋ねください。

2 ）原稿の線幅は全て 1㎜ 以上でしょうか？

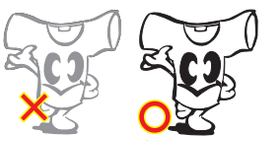
細い線は抜けません。全て 1㎜ 以上で描いてください。



絵柄が全く出てこない、あるいは絵柄が白くぼんやりと映るものの抜けてこない（透明にならない）（続き）

3 ）原稿の黒さは真黒でしょうか？

鉛筆・ボールペン・墨などは黒さが足りません。光に透かしたときに向こう側に全く明るさが感じられないほど真黒に描き（出力）しましょう。手描きの場合には、顔料入りの油性黒ペンで描きましょう。また、黒さが薄い場合には、黒ペンで書き足してください。



うすい　　濃い

Q2
絵柄の一部が抜けない（絵柄の一部が透明にならない）

スクリーンの不良ではありません。スクリーンの一部が感光したときに起こる現象です。次の項目をチェックしましょう。

■環境と作業手順のチェック

1 ）スクリーン保管状態のチェック

1-1）開封されたスクリーンをお使いの場合、スクリーンの入っている黒袋のファスナーが開いたままではなかったでしょうか？
袋が開いたままだと、スクリーンが自然に感光され、使えなくなってしまいます。残ったスクリーンは黒袋に戻し、しっかり封をして、開封後できるだけ１年以内にお使いください。

1-2）スクリーンが黒袋から出したままでなかったでしょうか？
スクリーンは自然に感光され、使えなくなってしまいます。黒袋から出したスクリーンは、フレーム貼り～ブラッシング～乾燥させる、までスピーディに作業しましょう。

2 ）紫外線の入らない場所かどうかのチェック

2-1）窓のある部屋（外の光の入る場所）では厚手のカーテンを閉めて作業していますか？
紫外線によってスクリーンが感光してしまいます。曇り・雨の日でも必ず窓に厚手のカーテンを閉めてから作業しましょう。

2-2）近くにスポットライト・ハロゲンライト・ビームライト・水銀灯などが点灯していませんか？
紫外線によってスクリーンが感光してしまいます。強い紫外線の出るライトは必ず消してから作業しましょう。

3 ）原稿とスクリーンは密着していますか？

スクリーンと原稿の間に一部隙間があると、きれいに焼き付けられません。
原稿は、専用スプレーのりでぴったりとスクリーンに貼りましょう。特に細かい絵柄の場合はわずかな隙間も無いように密着させましょう。（17 ページ参照）

■原稿のチェック

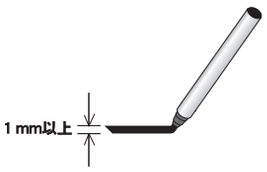
1）原稿用紙は規定の紙でしょうか？

再生紙・厚手のコピー用紙・感熱紙・一般のインクジェット紙など規定以外の用紙は使えません。
手描き・コピー／レーザプリンタ出力の場合は、T シャツくん専用原稿用紙をお使いください。インクジェットプリンタ出力の場合は、インクジェット専用原稿用紙をお使いください。２種の専用原稿用紙は、どちらも消耗品としてご用意しております。

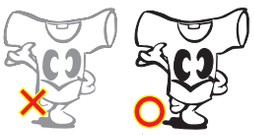
＜コピーについて＞
コピーの場合は、T シャツくん専用原稿用紙にコピーをとってください。（あらかじめコピー機にセットされている用紙は原稿として不向きです）
T シャツくん専用原稿用紙は普通コピー紙 55 k（64 g / ㎡）を使用しておりますので、コピー専門店にお尋ねください。

絵柄の一部が抜けない（絵柄の一部が透明にならない）

2 ）原稿の線幅は 1㎜ 以上でしょうか？
1㎜ 未満の細い線は抜けません。全て 1㎜ 以上で描いてください。



3 ）原稿の黒さは真黒でしょうか？
鉛筆・ボールペン・墨などは黒さが足りません。光に透かしたときに向こう側に全く明るさが感じられないほど真黒に描き（出力）しましょう。
手描きの場合には、顔料入りの油性黒ペンで描きましょう。また、黒さが薄い場合には、黒ペンで書き足してください。



Q3
絵柄の回りが崩れる

①手順通りに作業されても、長時間必要以上にブラッシングすると、スクリーンが崩れてしまいます。絵柄が原稿通り透明になったら、ブラッシングを終了し、乾燥させましょう。（20 ページ参照）

②版が抜けづらいために長時間ブラッシングすると、このような現象が起こります。この場合、Q1 のチェック項目（スクリーンが感光されてしまう原因）を参照してください。

Q4
スクリーンを水で濡らすと全体的に崩れる

Q3 の崩れとは違い、ハケで両面濡らしてブラッシングを始めるとすぐにボロボロと全体的に崩れる現象を差します。これは、スクリーンの感光が不十分であったとき（感光が足らない）ときに起こる現象です。次の項目をチェックしましょう。

■作業手順のチェック

1 ）ランプボックス（本体）のライトをチェックしましょう。

消灯／点滅状態の場合、及び光量が不十分な場合は感光が不十分になります。ライト交換が必要です。交換及び修理については販売店もしくは弊社にご依頼ください。（内部に電圧の高い部分がありますので、分解しないでください）

2）気温の低い時期には、作業前にライトを数回点灯させておきましょう。

ランプボックスに何も入れずに数回スタートボタンを押してライトを点けて光量を安定させておきましょう。その際、スクリーンには光が当たらない様に注意してください。（8 ページ参照）

■原稿用紙のチェック

1 ）原稿用紙は規定の紙でしょうか？

再生紙・厚手のコピー用紙・感熱紙・一般のインクジェット紙など規定以外の用紙は使えません。特に紙が厚い場合には紙の形に崩れてしまいます。手描き・コピー／レーザプリンタ出力の場合は、T シャツくん専用原稿用紙をお使いください。インクジェットプリンタ出力の場合は、インクジェット専用原稿用紙をお使いください。２種の専用原稿用紙は、どちらも消耗品としてご用意しております。

＜コピーについて＞

コピーの場合は、T シャツくん専用原稿用紙にコピーをとってください。（あらかじめコピー機にセットされている用紙は原稿として不向きです）

T シャツくん専用原稿用紙は普通コピー紙 55 k（64 g / ㎡）を使用しておりますので、コピー専門店にお尋ねください。

Q5
原稿以外のところが抜ける（穴が開く）

1 ）ピンホールの場合
Ｔ シャツくんスクリーンは感光法であるため、ハケでブラッシングした際に原稿以外の小さな穴（ピンホール）が発生します。これはスクリーンの不良ではありません。ピンホールは付属の「ピンホール修正液」で埋めてから印刷作業を行いましょう（21 ページ参照）

2 ）スプレーのりの付けすぎではありませんか？
1～2分時間をおいても、のりの水分が蒸発しないほどたくさんスプレーのりを付け、そのまま原稿をスクリーンに貼ると、その部分まで抜けてしまいます。適量を吹き付けましょう。

3 ）原稿用紙に汚れがありませんか？
汚れであっても、光を通さない部分は焼き付けられてしまいます。絵柄以外の汚れがある場合は、ハサミ・カッター等で切り抜きましょう。

4 ）原稿作成時にホワイト修正液を使用していませんか？
いわゆるホワイト修正液・修正テープ（文具屋で売られているもの）で原稿の汚れを塗っても、その下の汚れはそのまま残っているため、絵柄と同じように焼き付けられて、スクリーンが抜けてしまいます。絵柄以外の汚れがある場合は、ハサミ・カッター等で切り抜きましょう。

5 ）ランプボックスのアクリル面に汚れ・ゴミが付いていませんか？
ランプボックスのアクリル面が汚れていると、その部分が光を通さないため、絵柄と同じように焼き付けられてしまいます。汚れている場合は拭き取りましょう。(40 ページ参照)

こんなときには

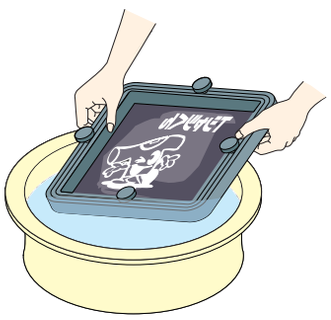
1 ）印刷がかすれる

1-1）インクはスクリーンにたっぷり載せ、1 回のスキージングで印刷しましょう。インクは多めに出した方が綺麗に印刷できます。余ったインクは、元の容器に戻せばまた使用できます。

1-2）スクリーンが目詰まりしていると、かすれてしまいます。目が詰まり始めたら早めに水で濡らしたテッシュでスクリーン裏面のインク（水性インクの場合）を拭き取りましょう（25 ページ参照）

2 ）フレームが外れない

フレームをぬるま湯に入れると、はずれるようになります。
スクリーン版はキズ、破れ等がなければ引き続き使用することができます。
ただし、キズ、破れが小さい場合は、ピンホール修正液をスクリーン版の裏面から塗って補修すれば、引き続き使用することができます。



3 ）スクリーンの一部が水性インクで目づまりしてしまった場合

目づまり防止策（25 ページ参照）を行っても、スクリーンの一部に目づまりが発生した場合には、専用目づまり除去液をご使用ください。専用目づまり除去液は、部分的な目づまりにのみ有効です。全体的に目づまりが発生したときには、再度スクリーン版を作成されることをお勧めします。（専用目づまり除去液を多数回使用すると、スクリーン版が傷みます。）

4 ）蛍光灯の光量が弱くなった場合

使用状況にもよりますが、1000 時間程度使用されると新しいライトに取り替えられることをお勧めします。ライト交換は販売店もしくは弊社にご依頼ください。（内部に電圧の高い部分がありますので、分解しないでください）

お手入れの方法

インク、スプレーのりが付着した場合は、以下のお手入れを行ってください。

●ランプボックスに付着したインク、スプレーのり●
ランプボックスのアクリル面は汚さないように気をつけてください。(汚れると感光不十分になり、きれいな製版ができなくなります。)
インク、スプレーのりが付着した場合は、ふきとり & うすめ液をティッシュ等にふくませ、やさしくふき取ってください。
※シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変形、変色の原因になります。

●スキージ、フレーム、ヘラなどに付着したインク●
水性インクの場合は、早めに水でぬらしたティッシュや雑巾などでふきとります。こびりついた場合は、ふきとり & うすめ液をティッシュ等にふくませ、やさしくふき取ってください。
※シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変形、変色の原因になります。

●プリントパネルに付着したスプレーのり●
ふきとり & うすめ液をティッシュ等にふくませ、やさしくふき取ってください。
※シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変形、変色の原因になります。

インクとスクリーンの説明

（各インクの特長と使い方）

●一般インク、蛍光インク（水性）

・用途：T シャツ、ハンカチ等の綿製品及び紙・白木等。
・　　（水をはじく物には印刷できません。）
・対応スクリーン：60M・80M・120M
・布地プリントには最適のインクです。濃色地への印刷時は、白色で印刷して乾燥させ
・た後、その上に重ねてお好みの色で印刷するとより鮮やかな発色になります。
・※インクが硬いときは、水性バインダーを混ぜてください。
・※金・銀インクは、60M 又は 80M のスクリーンを使ってください。

●発泡インク（水性）

・用途：T シャツ、ハンカチ等綿製品
・対応スクリーン：60M・80M・120M
・　　（より発泡させたいときは、粗いメッシュ 80M をお使いください。）
・手につかなくなるまで自然放置（30 ～ 60 分）またはドライヤでよく乾燥させた
・のち、印刷した部分の裏からスチームアイロンをかけます。インクがぷくぷくと盛り
・上がり、遊び心いっぱいのプリントが楽しめます。
・※よく混ぜてからお使いください。
・※インクが硬いときは水性バインダーを混ぜてください。

●ポリウレタンインク（水性）

・用途：紙・綿・ポリエステル・ナイロン
・対応スクリーン：60M・80M・120M
・ポリウレタン樹脂インクは伸縮性に富み、ナイロン 100%・ポリウレタン 100%素材
・にもプリントできます。（はっ水加工素材にはプリント不可です。）
・一般水性インクより柔らかな色目で、パステル調のプリントが楽しめます。
・※水性目つまり除去液は使えません。
・※インクが硬いときはポリウレタンインク専用バインダーを混ぜてください。

●蓄光インク（水性）

・用途：T シャツ、ハンカチ等の綿製品（綿 50%以上）
・　　（水をはじく物には印刷できません。）
・対応スクリーン：60M・80M・120M
・太陽光や電灯の光を吸収・蓄積し、暗いところで光るインクです。（濃色布地には不可
・です。）
・※よく混ぜてからお使いください。
・※インクが硬いときは、少量の水を混ぜてください。

●一般油性インク（油性）

・用途：紙・白木・金属塗面・ガラス・アクリル・エンビ・ABS
・対応スクリーン：120M・230M
・プリント面の完全乾燥には約 24 時間かかります。
・※インクが硬いときはふきとり＆うすめ液を混ぜてください。

●マルチチョイスインク（油性）

・用途：綿・綿混紡
・対応スクリーン：60M・80M・120M
・布専用の油性インクです。油性インクですので、水性一般インクより目つまりは
・しにくいインクです。完全乾燥には必ず熱処理（別売のシリコンシートをあて、中温
・ドライアイロンをかける）を行ってください。自然乾燥では、乾きません。多色刷り
・には、水性一般インクをお勧めします。
・※インクが硬いときはマルチチョイスインク用専用希釈剤を混ぜてください。
・　（ふきとり＆うすめ液は混ぜないでください。）

●マルチチョイスインク専用希釈剤（薄め液）

・マルチインクが硬いときは、粘度調整用としてインク量の 1 ～ 5%を混ぜてください。

インクとスクリーンの説明（続き）

●ナイロンウエア用インク（油性）

・用途：ナイロンサテン・ナイロンタフタ
・対応スクリーン：60M・80M・120M・230M
・※必ず硬化剤を混ぜてください。
・※インクが硬いときはナイロン専用溶液を混ぜてください。

●ナイロンインク用溶液

・ナイロンインク専用の拭き取りとうすめ用に使います。
・ナイロンインクが硬いときは粘度調整用としてインクに混ぜてください。

●ナイロンインク専用硬化剤

・ナイロンインク使用時には必ずお使いください。（硬化剤なしではインクは固まりません。）
・インク量の 5 ～ 10%の硬化剤を混ぜてからプリントします。

⚠ 警告

・ナイロンインク専用硬化剤は自然硬化します。キャップを開けたままにしておくと固まってしまいますので、使用後必ずキャップを閉めてください。完全に固まってしまうと使用できなくなります。開封後の使用期限は冷蔵庫に入れて 2ヶ月を目安にしてください。
・ナイロンインク専用硬化剤を使用するときは、注意事項をよく読み作業を行ってください。

（インク、スクリーン選びのポイント）

・付属のインクは水性一般インクで、綿及び綿混紡（綿割合 50%以上）に適しています。ナイロン生地には、別売りの T シャツくん専用ナイロンウェア用インクをご使用ください。

・濃色生地に発色よく印刷したいときは、T シャツくん専用白インクを下地として文字、絵柄等を印刷してから、 専用一般インク（赤、青、黄、緑、など）で印刷してください。

・同種 T シャツくん専用のインクは自由に混色ができますので、好みの色が作れます。

・多枚数単色印刷するのに、目づまりしないインクとしてマルチチョイスインク（布専用・油性）があります。ただしこのインクは熱乾燥 (160 ℃以上) が必要です。

・付属しているスクリーンは 120 メッシュです。T シャツくん専用スクリーンは別売りで、60 メッシュ・80 メッシュと 230 メッシュがあります。

・発泡インク、金銀インクは 60 メッシュ 80 メッシュが適しています。230 メッシュは一般油性インク、ナイロンウェア用油性インク専用です。（水性インクは使えません。）

（目づまりを防ぐ方法）

・●水性インク詰まりが起こり始めたら、水を含ませたティッシュでスクリーン版の裏面よりインクをふきとり、完全に乾燥させたあと再び印刷を行ってください。

インクとスクリーンの説明（続き）

（各インクの用途及び対応表）

Tシャツくんインク用途				
	製品	用途	対応スクリーン	乾燥
水性	一般インク	綿、綿混紡（綿 50%以上）、白木等	60 ～ 120M	洗って使うものにはよく乾燥させた後、ドライアイロンを 2 分程度あてる。
	蛍光インク		60 ～ 120M	
	金・銀インク		60 ～ 80M	
	蓄光インク	綿、綿混紡（綿 50%以上）	60 ～ 120M	
	発泡インク	綿、綿混紡（綿 50%以上）	60 ～ 120M	自然乾燥またはドライヤーでよく乾燥させた後、裏からスチームアイロンをかけると発泡する。
	ポリウレタンインク	綿、ポリエステル、混紡、ナイロン、皮革、一部の撥水生地等	60 ～ 120M	洗って使うものにはよく乾燥させた後、中温のドライアイロンを 2 分程度あてる。
油性	マルチチョイスインク	綿、ポリエステル、混紡等	60 ～ 120M	170 ～ 200 ℃、1 ～ 2 分
	ナイロンウェア用	ナイロンタフタ、ナイロンサテン防水布等、一部のゴムウレタンレザー（合皮）	80 ～ 230M	指触乾燥　30 分 完全乾燥　48 時間（20 ℃）
	油性インク	金属塗装品、木製塗装品、紙、木、ガラス、アクリル、ABS 塩ビ等のプラスチック	120 ～ 230M	指触乾燥　30 分 完全乾燥　24 時間（25 ℃）

同種類のインクは混色可能です。

用途対応表		* コート紙等コーティングされ水をはじくものにはご利用できません。											
	製品	濃色生地（綿、混紡）	綿	混紡	ポリエステル	ナイロン	撥水生地（防水布）	皮革	合皮	紙	木	プラスチック	ガラス
水性	一般インク	● 2)	●	● 3)	×	×	×	×	×	● *	● *	×	×
	蛍光インク												
	金・銀インク												
	蓄光インク	×	●	● 3)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	発泡インク	●	●	● 3)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ポリウレタンインク	●	●	●	●	●	● 1)	● 1)	×	×	×	×	×
油性	マルチチョイスインク	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×
	ナイロンウェア用	×	×	×	●	●	● 1)	×	● 1)	×	×	×	×
	油性インク	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●1)	●

1）種類によって接着しない場合があります。必ず事前にテストをしてください。
2）白生地専用純赤インクを除きます。
3）綿割合 50%以上。

オプション品の紹介

●ピンホール修正液（一般用 / ナイロンインク用）

・スクリーンのキズ（不要に空いてしまったピンホールなど）を埋めるとき使います。
・スクリーンの裏側（インクのつかない面）より、修正個所に均一に塗り、完全に乾燥させてから、プリントします。
※ナイロンインク使用の場合、ナイロンインク専用修正液をお使いください。

●目づまり除去液

・スクリーン上に部分的に目づまりした水性インクを取り除くとき使います。
・目づまり部分にスプレーして、インクを溶かします。除去液を拭き取り、完全に乾燥させてから、プリントします。多数回使用すると、スクリーンが傷みますのでご注意ください。
・ ※ポリウレタンインクには使えません。

●スクリーン補強剤

・多枚数のプリントの場合、スクリーンの強度をあらかじめ高めたいときに使います。
・製版後、プリントする前に、スクリーンの裏側（インクのつかない面）に全面スプレーします。スプレー後すぐに、スクリーンの表側（絵柄部分）の補強剤を拭き取り、完全に乾燥させてから、プリントします。

●ふきとり＆うすめ液

・一般油性インクの拭き取りとうすめ用に使います。
・スキージ等にこびりついた水性インク及びマルチチョイスインクの拭きとり用、またプリントパネルにこびりついたスプレーのりの拭き取り用としても使えます。

●シリコン紙

・マルチインクをアイロンで乾燥（熱処理）させる時に使用します。

●マスキングテープ

・1 版での多色印刷、多色印刷時の位置合わせ時等に使います。
・テープを数枚重ねることもできます。

● T シャツくん専用原稿用紙　A4　50 枚

・手描き、あるいはコピー / レーザプリンタで出力する際に使います。

●インクジェット専用原稿用紙　A4　30 枚

・インクジェットプリンタで出力する際に使います。

索引

T
T シャツ作成の流れ ..... 10、11

い
インク ..... 41、42、43
インクジェット専用原稿用紙用
露光スタート / ストップボタン . 19

お
オプション 44

く
クランプ 23

け
原稿 13
　手描き 13
　コピー 13
　インクジェットプリンター ... 14

す
スキージ 24
スクリーン
　スクリーン印刷のしくみ 7
　スクリーンのセット 23
　スクリーンのチェック 21
　スクリーンの張りかた 16
　スクリーンの保管 25
　スプレーのり 15
スポンジマット 17

せ
専用原稿用紙用露光スタート /
ストップボタン 19

た
多色プリント ..... 28、29
多枚数印刷 27

て
電源ボタン 19

と
ドライアイロン 25
トラブル
　絵柄が出ない 31
　絵柄がぼやける 31
　絵柄が抜けない 34
　スクリーンが崩れる 37

ひ
ピンホール 38

ふ
付属品 12
ブラッシング 20
プリント 24
プリントパネル 23

め
メッシュ 7

ら
ランプボックス 18

ろ
露光 19

Note

Note